

■有馬新七 鹿兒島藩士。尊王攘夷家。藩校造士館訓導となって校風を一変させるも、〈寺田屋事件〉で斬死した。

ありましんしち

異国船打払令1825＝ 薩摩国伊集院郷(鹿兒島県日置郡伊集院町)で、郷士坂四郎兵衛正直の子に生まれる。

日本外史・・1827＝ 2歳：父が城下士有馬姓を継いだため、加治屋町に移る。

寺田屋事件・1828＝ 3歳：

富嶽三十六景1831＝ 6歳：この年、父が広敷番となり、近衛忠熙夫人となった島津郁子に従い、上洛。

高島砲術・・1834＝ 9歳：

大塩平八郎乱1837＝12歳：

幼少時より英敏にして文武に励んでいたが、

勲進帳初演・1840＝15歳：元服の頃から、東郷流弓術・神影流剣術とともに、山崎闇斎派の学問を学んで、激烈となり、

順天堂始・・1843＝18歳：江戸遊学の許可を得て、京都の父のもとを経て、出府、山口菅山に就き、崎門学の精髓を極め、

天保改革終・1844＝19歳：早くも、師の代講を勤める。

阿部正弘首座1845＝20歳：以降、京都に滞在し、同門の先輩鈴木恕平・梅田雲浜らと交遊する。近衛家の計らいで宮廷に上り天皇親祭の新嘗祭を遠くから拝観するを得たが、この感激が骨の髄まで染み込んで純粋な勤皇家となり、

孝明天皇・・1846＝21歳：帰藩して大義名分論を唱え、

要路に睨まれて不遇となるが、

尊徳報徳論・1851＝26歳：\*島津斉彬の治世となるに及んで世に出る機会を得、

万次郎帰国・1852＝27歳：

ペリー来航・1853＝28歳：

松下村塾・・1856＝31歳：再度東上、

安政の大獄・1859＝34歳：帰藩後も、広く天下の志士と交わり、幕府の無勅許条約調印の非違を正そうとして画策して、

桜田門外変・1860＝35歳：\*大久保利通ら同志40余人と脱藩挙義を謀ったが、藩主茂久自筆の挙藩勤王の慰諭書を下され他日を期することになったため、有村兄弟のみが変に参加した。

遣欧使節・・1861＝36歳：\*藩校造士館訓導師に任ぜられると、大いに尊王精神を鼓吹して、校風は一変したという。

生麦事件・・1862＝37歳：\*島津久光の率兵上京の列に加わったが、久光の本意は奉勅公武周旋にあり、新七ら過激派の本意は討幕挙兵、すなわち青蓮院宮を戴き、関白九条尚忠・所司代酒井忠義を除いて義兵を挙ぐるにあった。かくて新七らは、密かに中山家土田中河内介・久留米藩神官真木和泉守・岡藩士小河一敏らを加えて、伏見寺田屋に集合し夜を待った。不穩の情報が驚いた久光は、大山格之助・奈良原繁ら9人の剣士を急派して鎮撫にあたらせたが、格闘が勃発して同志相持つの惨劇となり、有馬ら7人は斬死した。生涯3度結婚し、3度目の妻との間に、1男1女がある。